

1 市町名 羽生市

2 課題をもとにした仮説

◎学力向上に対する具体的な分析に基づいた特色ある取組を共有し、『羽生市よい取組事例集』『授業改善指針：羽生の子を伸ばす教育』を作成・周知しながら広げること
で、よい取組が市内各学校で展開され、子供たちの学力が向上するだろう。

◎羽生市独自の帳票を作成し、学習方略・非認知能力に着目した授業改善の視点を各授業に取り入れることで、学びの実態に合った授業が展開され、学力が向上するだろう。

3 効果的な取組の例

(1) 市町教育委員会における主な取組例

①具体的な取組例

- ・ 県学調の結果を分析 (R:Research) の起点とした『R-PDCA サイクル』を啓発し、各校で学力向上対策が推進できるようにした。
- ・ 埼玉県及び全国学力・学習状況調査分析補助 (市教委指導主事が希望校を巡回) を行うとともに、部長・学力向上推進担当の『学力向上学校訪問』を実施した。
- ・ 「コバトンのびのびシート」を活用するために、学力の伸びが分かるように、羽生市独自の「帳票 00」を作成した。
- ・ 臨時休業を経験し、いち早く TV 会議システム (zoom) や YouTube を活用した家庭学習支援を実施した。
- ・ GIGA スクール構想の実現に向けたスムーズな導入に向けて、既存の ICT 機器の活用の在り方を改めて周知する「羽生市 ICT 教育ガイドライン」を作成した。既存の PC 教室のタブレットを使い、「仮想 1 人 1 台」を実現し授業改善を促した。



「学びをつなぐ」授業改善を目指して

- 市教委において伸ばしている先生の「よい取組」を収集・共有し、「よい取組集」や授業改善指針「はにゅうの子を伸ばす教育」を作成した。

【授業改善リーフレット】はにゅうの子

日々の授業の質を高める！ 見方を変える！ 形を変えよう！
「はにゅうの子」を伸ばす教育

は：【教師の】発話量（説明）を減らしましょう！
 授業中の発話がT（教師）-C（子ども）-T-C・・・と一問一答に留まっていますか？
 T（教師）-C（子ども）-T-Tと説明しすぎていませんか？教師の発話を極力減らし、子どもたちが同士の間見がちな授業をつくりましょう。意見をつなげるためにどのような発問（問題提起）が必要でしょうか？

に：日常生活とのつながりを重視しましょう！
 学んだ事と日常生活の関係をつなげる授業を目指しましょう。日常生活の問題から授業に入ることでもできます。子どもたちの興味・関心を高め、主体的な学びを促しましょう。

ゆ：行き先（授業のゴール）を見通した授業設計をしましょう！
 教師として授業のねらいをしっかりと設定し、授業のゴールを明確にしながら、子どもたちにも必要だと見通しをもたせて授業を行いましょう。

う：うまく意見（考え）を引き出し、対話を紡ぎましょう！
 子どもの考えを聞き取りどのように発展させるか効果的な質問を繰り返しましょう。（発問案の）予想される子どもの反応は実際と合っていますか？子どもの意見（考え）を引き出す「発問」や思考を促める「問い直し（切り直し発問）」を準備しておきましょう！

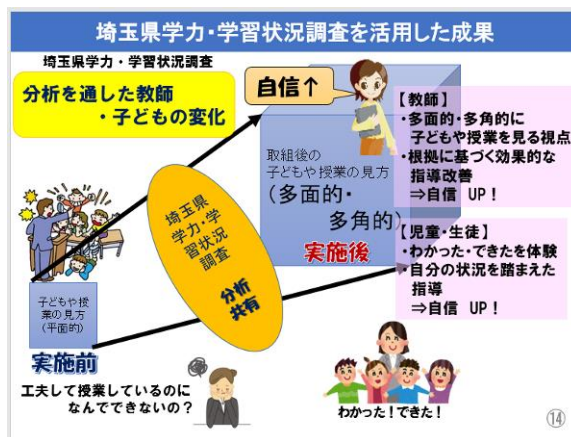
の：能力を伸ばす+の声かけを普段から意識しましょう！
 （いい意見をした子）「〇〇さんの見方はとてもいいね！」「とてもいい考えだね。」という見方・考え方を全員へ広げる声かけを意識しましょう！また、次へつなげる一歩も踏ましましょう。（例：〇〇さんや他にも見つけられることまでどうだね）（例：いい考えを共有してみんなの考えに広げてあげよう）⇒（×だからでいいんだよ）（×だねがね）。

こ：子どもの言葉で授業の振り返りをしましょう！
 授業のちとめと振り返りは同じではありません。クラス内のいろいろな意見から振り返り上げた全体の【ちとめ】と子どもも意見を他人の発言のメタ認知（みりかえり）。

個々の子どもたちに**授業前後の成長を意識化**させましょう！

②取組の成果と課題

- 子供たち一人一人の弱点に応じた補充プリントに取り組ませる（A:Action）ことで、個々の課題が克服され、学力のさらなる向上をねらう R-PDCA サイクルができるようになってきた。
- コバトンのびのびシートを活用するため、学力の伸びが分かるように羽生市独自の「帳票 00」を作成し各校で活用した。「気になる子」に対してコバトンのびのびシートを活用してのフォローアップが期待される。
- GIGA スクール構想の実現に向けたスムーズな導入において、既存の ICT 機器の活用の在り方を改めて周知する「羽生市 ICT 教育ガイドライン」を作成した。既存の PC 教室のタブレットを使い、「仮想 1 人 1 台」を実現し授業改善を促した。授業支援アプリを活用した授業づくりが早い段階から始められている。



(2) 重点校における主な取組例

① 具体的な取組例

ア 授業の流れの統一

- ・毎時ほぼ同じ流れで授業を行うことで児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。
- ・「授業の流れ」をベースに単元によって工夫した指導ができるようになった。

単元	授業の流れ
1	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
2	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
3	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
4	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
5	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
6	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
7	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
8	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
9	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
10	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
11	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
12	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動
13	1. 単元の導入 2. 教科書の読み 3. 読者の気持ち 4. 登場人物の話し方 5. 登場人物の気持ち 6. 登場人物の行動

授業の流れ

イ 素読の励行

- ・文章の意味を考えずに声に出して読むことで、脳の前頭前野の活性化による学習効果の向上を図った。
- ・朝の会において全学級で毎日行うこととした。
- ・保護者や地域の方々の前での発表の場を設け意欲付けを図った。



素読の様子

ウ 書く力を高める活動

- ・授業内での「振り返り」を充実させるため、低・中・高のブロックごとに書く視点を変え、ステップアップして書けるようにした。

	低学年	中学年	高学年
書く内容	①授業で行ったこと ②感想	①授業で行ったこと ②学んだこと（できた、分かった、分からない）	①授業で行ったこと ②学んだこと（できた、分かった、分からない） ③さらに学びたいこと、疑問点、普段の生活で活用できること

- ・「週末作文」と題し、テーマや条件を設け、作文や絵日記を毎週末、家庭学習に出すことを統一して行うようにした。

エ 読む力を高める活動の工夫

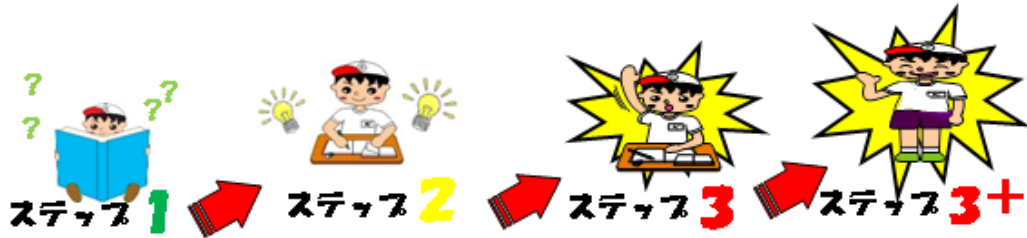
- ・教科書の文章をもとに、答えの根拠となる言葉にサイドラインを引いて読み取りたり、主人公の気持ちの変容を矢印でつないだりする活動を多く取り入れた。
- ・校内に「国語プリントボックス」を作成し、どの学級でも好きな時に「物語文」「説明文」「詩」の文章問題を解けるようにした。

オ 読書の推奨

- ・図書室以外で本に親しめる「読書の森」を新設した。
- ・年3回（6月、11月、2月）の読書月間を実施した。
- ・校長に任命された「読書課題解決チーム」の教員を中心に本の貸出数を増やし、1月末で総貸出数が6,000冊を超えた。併せて、教員の貸出数も約7倍に増加した。
- ・「ハートフルデー」と称し、月に1回、宿題を出さずに家庭で本を読む日を設定した。

カ 北小オリジナル「わかるステップ1・2・3・3+」

- ・本時の学習課題に対する理解度を自己判断するものとして活用している。これは、授業内で2回自己評価させ、授業内で児童は自分の変容を知ることができるものである。児童の記述した数字を基に理解度を把握し、的確な指導・助言を与えたり、次時の学習に役立てたりしている。ステップ3の姿を目指して意欲的に課題に取り組む児童を増やすこと、また、ステップ1、ステップ2で止まっている児童に教師が効果的な支援をできるようにすることをねらった。



- 【ステップ1】 どうやって解いたらよいか思考している状態
- 【ステップ2】 解き方が見つかって答えが出た状態
- 【ステップ3】 言葉や図などを使って解き方を説明している状態
- 【ステップ3+】 複数の解き方で考え、共通点や大事な部分を見つけ、自分でまとめられる状態



キ 学習規律の徹底

- ・「北小学習規律の合言葉『田は日照り』」を合言葉に全学級で全項目を100%にするため日々取り組んでいる。学習規律が整い、集中して授業に取り組む児童が増えた。

ク 家庭学習の充実

- ・各学年の家庭学習の仕方が上手な「マイマイ名人」を選び、その名人を表彰する。さらにgoodノートに選ばれた児童には、校長オリジナルの表彰を受け称賛している。そのノートをコピーし、全校児童へ掲示し紹介している。

ケ 保護者・地域との連携

- ・月1回の学力向上通信「北小わかるステップ1・2・3」を発行し、全国学力・学習状況調査に出題されるような問題や頑張っている自主学習のノート、読んでほしい本などを紹介した。

The page is a newsletter titled '学力向上通信' (Academic Improvement Newsletter) with the subtitle '北小わかるステップ1・2・3'. It contains several sections:

- 新学期、新しい学習に参りました:** A message about the start of the new school year.
- 家庭学習について:** Information about home learning.
- 読書について:** Information about reading.
- 「ぜひ、図書館へ行こう!」:** A call to visit the library.
- 全国学力・学習状況調査:** Information about the national assessment.

②取組の成果と課題

(1)成果

- ア 授業内で意図的に書く機会を設けたり、振り返り活動や週末作文で書く活動を取り入れたりした結果、書くことへの抵抗感が減り、意欲的に文が書ける児童が増えた。
- イ 国語科の研究を重点化し、外部の先生から御指導をいただき、KJ法による協議を積み重ねた結果、国語の授業改善が進み、指導力が向上した。
- ウ 「北小学習規律の合言葉『田は日照り』」の合言葉が教員間に浸透した。その結果、教員の意識が変わり、児童の学習規律も整い、授業開始から終了までの45分間を落ち着き集中して取り組めるようになった。

(2)課題

- ア 今年度までの研究や家庭学習を通して、学力が高まった児童とそうではない児童との間の学力差が開いてしまっている。
- イ 「読む力」を高めるためにはどういう取組をすればいいのか研究の途中であり、これからも継続して研究を進めていく必要がある。

(3) これからの取組

- ア 今年度から研究を始めた「読む力」の向上に係る取組を、R-PDCAサイクルで検証しつつ、改善を図っていく。
- イ 基礎的・基本的な学習内容が定着しつつある今、次のステップとして活用問題に取り組ませ、より高い学力を身に付けさせる。
- ウ 語彙力を増やすための活動を考え、児童の表現力を高めていく。